

令和6年度 学校経営計画・学校評価				□4月4日提出		□10月3日提出		■3月14日提出		学校番号		6		城山		高等学校		課程		全						
高知県の教育の基本理念		(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人			基本方針		①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備																			
スクール・ポリシー		【アドミッション・ポリシー】(入学受入れ方針)			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)																					
		○相手の立場を理解し、そのなかで自己の可能性を試し、自己を磨こうとしている生徒 ○生徒会活動、部活動、ホームルーム活動、ボランティア活動に関心・意欲をもつ生徒 ○福祉に興味・関心をもち、将来その方面に進もうとする生徒 ○卒業後の進路に関し、目的意識をもち、それに向けて積極的に努力する生徒			○丁寧な指導(年間25回の週明けテスト、終SH前に10分間の学習会等)を通して、基礎学力の向上を図る。 ○ICTを積極的に利用した授業を展開する。 ○少人数での指導を生かし、生徒が気付く、考える、表現する授業を展開する。 ○アセスやアンケートを実施し、個々の生徒を理解し、寄り添う学級づくりを推進する。 ○自立活動(API)を教育課程に取り入れ、「自立支援」を行う。(希望者) ○専門科目の資格取得をめざした学習を積極的に推進する。 ○生徒会活動、部活動、ボランティア活動など多彩な地域貢献活動を展開する。																					
スクール・ポリシー		【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力)																								
		○基礎学力を身に付け、目標に向かって、主体的に努力できる生徒を育成する。 ○礼儀や規律を守った行動ができる生徒を育成する。 ○社会に貢献しようとする意欲を持った生徒を育成する。																								
(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分																										
		育成を目指す資質・能力【P】			現状と目標(評価指標)			具体的な取組内容【D】			中間評価【C】			中間評価後の取組内容【P・D】			年度末評価【C】			見直しのポイント【A】						
重点項目		学力的向上		★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)			【現状】 ○C層以上の生徒の増加 ・1年、2年とも5%増加させる 【目標】 ○授業外学習時間の増加(R6年度2年2回目40分以上)【R5年度35分】 ○将来のための勉強をしている生徒の増加(R6年度3年2回肯定的評価80%以上)【R5年度 79.2%】			○「学習の時間」に「すらら」を活用し、家庭学習の習慣化を目指す ○ICTを活用した公開授業を実施し、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう、生徒が気づく・考える・表現する授業づくりを目指す			B ・家庭学習の習慣化を図るため、各教科が主体的に取り組んでいる。 ・公開授業だけでなく普段より、ICTを活用し、授業内容の提示や教員の指示を提示するなど、わかりやすい授業を実践している。			・学習の時間に「すらら」を活用することで、学習の習慣化を目指す。 ・全教職員による公開授業を実施し、その際ICTを活用し、生徒が気づく・考える・表現する授業づくりを目指す。			B ・基礎力診断テストC層以上の生徒の割合 1年、2年とも約5%増加した。 ・授業外学習時間の増加(2年2回)51分【R5年度35分】 ・将来のための勉強をしている生徒の割合(3年2回)89.4%【R5年度 79.2%】			・タブレットの活用法について検討する。 ・「すらら」の活用法を検討し、学習の習慣化を図り、基礎学力の向上を図る。 ・UD等を意識したICT活用について、校内研修等で全教職員に周知する。				
				社会性の育成		★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)			【現状】 ○聞く力、想像する力に課題がみられる。 ○成功体験が少ない 【目標】 ○挨拶、お礼、感謝など人間関係を豊かにする言葉が自然に使えるようになる ○学力向上と主体的行動がとれるようになる 進路指導等を通して、課題意識を醸成させ生徒が主体的に行動できるよう指導し、学力向上につなげる。			○教室の整理整頓、校内を清潔に保ち落ち着いた生活空間を保つ ○挨拶の励行と好ましい言動を褒める ○生徒会主体の学校行事の企画運営 ○地域での奉仕活動の機会を増やす ○各学年の進路行事(人事部体験、学校訪問、インターンシップ等)の実施。			B ・規範意識や学習意欲が低い生徒が一部の生徒で見られるため、今後も学校全体で粘り強い指導を継続する。 ・1年次生の職場体験学習に向けて「聞く・謝る・挨拶・メモをとる・質問をする」スキルを総探で取り組んだ。職場体験学習後に自己・他者評価を実施し、スキルの定着等について評価する予定である。 ・各学年の進路行事(人事部体験や県内大学訪問等)を通して、望ましい学校生活での振る舞いや言動を意識できるようにできている。実施後のアンケートにより学校生活を振り返った生徒も多数おり、週明けテストの点数が前年より向上している学年がある。			・生徒が共同で使う場所(昇降口・トイレ・教室等)の環境を清潔に保つ。 ・整理整頓が苦手な生徒でも学習環境を整えることの手立て(机の位置決め・ファイルケースの使用)を行う。 ・1年次生は職場体験学習でSSTを実践する。			B 生徒指導に関しては、一部の生徒においては、自己理解・他者理解の不熟さから感情のコントロールがうまくできず、その結果友人教員に対して校則に関して理解が十分でない行為がみられた。 コミュニケーション能力、キャリアデザイン能力を育成するには経験から学ぶことがなにより大きいと考える。慣習や固定観念にとらわれず新しい発想で年間計画を立てることが必要。					
取組項目		地域協働学習				【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携			【現状】 ○ふくしデザイン部・放送部等が地域貢献に取り組み、一定評価されている。 ○赤岡地区でのあいさつ運動に取り組んだ。 【目標】 ○オリジナルアンケート「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答2年2回目50%以上を目指す。			○文化部(ふくしデザイン部・イラストデザイン部・ビジネス研究部・放送部・写真部)の活動において香南市の広報や産業活性化になる取組とタイアップしていく。 ○地域の清掃活動やあいさつ運動など地域の安全や環境整備に取り組む。			B ・放送部が香南ケーブルテレビの香南市の学習塾の紹介番組「香南市ここで学ぼう！」でインタビュー役として参加し、地域貢献している。 ・生徒会を中心に有志を募り、地域のボランティア活動に参加している。			・ふくしデザイン部が外部団体と協力し、本校中庭の花壇を整える。 ・放送部も引き続き香南ケーブルテレビと連携するとともに、地域の祭りに等に司会等で参加し地域貢献に努める。 ・生徒会等も引き続き、地域のボランティアに参加する。			A ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある生徒の割合(63.6%:2年2回) ・放送部が地域の祭り等で、司会等を行ったり、カシオワールドオープンでスタートアナウンスを経験することができた。あと、KUTVから取材を受け、TVでも活動を紹介された。 ・地域のあいさつ運動に取り組んだ。			コロナ禍が明け、コロナ禍前に戻りつつある。R7年度は、さらに様々な場面で、地域と連携していく必要がある。		
				教科横断的教育		【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成			【現状】 ○語彙力や表現力に課題がみられ、些細なことでトラブルになる ○時事問題に対する興味関心の度合いに個人差がみられる。 【目標】 ○高知県オリジナルアンケートの間20「テレビのニュース…」の肯定的評価が70%以上 ○高知県オリジナルアンケートの間23「将来の社会を…」の肯定的評価が70%以上			○生徒が読んだ時事問題に関するニュースを1週間に一つ程度、週明けの授業でタブレットにタイトル等を記録させる。 ○総合的な探究の時間や教科の授業で、環境や社会の問題を意識させる課題を設定する。			B ・地歴公民科の授業の受講者を対象に、1週間に一度、朝日中高生新聞の1週間ニュースを読ませ、タブレットへ記録させている。 ・2年次生の総合的な探究の時間で、チームに分かれ、高齢者施設等を中心に地域と連携し始め、課題を見出している。			・地歴公民科の取り組みも継続して取り組んでいく。 ・2年次の総合的な探究の時間では、継続して活動していく。			A ・第2回高知県オリジナルアンケートの間20「テレビのニュース…」の肯定的評価は78.7%になった。 ・同アンケートの間23「将来の社会を…」の肯定的評価は70.8%となった。 ・2年次生の総探の時間では、社会福祉協議会を中心に連携し、地域・社会の一員として自覚を持たせることができた。			・地歴公民科の取り組みは今後も継続し、学年が上がるごとに内容が深まる記録方法に変えていきたい。 ・2年次生の総探については、コースの特色を生かした地域貢献や活動ができればと考える。		
		取組のねらい【P】				現状と目標(評価指標)			具体的な取組内容【D】			中間評価【C】			中間評価後の取組内容【P・D】			年度末評価【C】			見直しのポイント【A】					
チーム学校		学校の振興		★学校の魅力化 ○福祉教育の充実を目指す ○地域・中学校の連携を充実させ学校と地域のwin-winの関係を目指す			【現状】 ○R4までは、コロナ禍の影響で地域の催し等への参加が減少していたが、R5より徐々に増えてきている。 ○R5はボランティアに積極的に参加し、参加人数も増加しているが同一メンバーによる参加が多い。 【目標】 ○福祉教育で学んだことを地域福祉に還元する ○地域への奉仕活動を推進する 「高知県介護の日の作文・ポスター」に出展し表彰結果・ボランティアの参加率(部活動による地域貢献を含む)			○福祉教育で学んだことを遠隔教育システムを活用し、他校と交流する ○ボランティア週間や総合的な探究の時間を活用し、地域への奉仕活動および調査・研究を推進する ○部活動の取り組みの中で地域貢献をすることで学校の振興を図る			B ・赤岡中学校から生徒が城山高校に来て、福祉選択生による高齢者体験授業に参加予定。 ・「こうち介護の日」作文コンテストに応募。 ・ボランティア活動等については、コロナ前に戻りつつあり、生徒会を中心として行っている。			・ボランティア週間や総合的な探究の時間を活用し、地域への奉仕活動および調査・研究を推進する ・部活動の取り組みの中で地域貢献をすることで学校の振興を図る			B ・ボランティアの参加者は、36名(54.5%)【のべ83名】となり多くの生徒が参加 ・「こうち介護の日」作文コンテストの部において、2名入賞(最優秀賞と入選)			・ボランティアには、例年多くの生徒が参加しているが、同一メンバーによる参加が多い。より多くの生徒が参加できるように内容等を見直し、より充実した計画にする ・数々の行事の中で生徒が他者と協働する力や豊かな心を育むような場を設定する。				
				不祥事防止		★教職員の倫理観の堅持 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス			【現状】 ○小規模校であるため教員一人に対して仕事の種類が多く、専門性が多岐にわたり、負担が大きい。 【目標】 ○校内研修の実施(5回) ○不祥事防止委員会の実施(5回)			○業務の見直しを常に行っていく。 ○校務分掌内で進捗状況を把握する。 ○心身の健康を推進する研修実施			B ・年度当初は、不祥事防止チェックリスト実施やハラスメントについて校内研修を行った。 ・不祥事防止を目的に全教職員で標語を100標語作成した。			・不祥事防止のため100標語作成したが、次の研修で全標語の1位を決定する。また、標語作成時に思考したことや気づき等を共有する校内研修を実施予定			A ・不祥事防止研修を年間7回実施し、不祥事防止に努めた。 ・不祥事防止委員会は年間5回実施し、研修等を効率よく行うため検討した。			・不祥事防止に関する研修等を行ったが、計画的ではなかった。次年度は実施時期や内容等、計画的に行う。		
						働き方改革		★長時間勤務の解消 ○風通しの良い職場環境を目指す ○教職員の心身の健康を目指す			【現状】 ○時間外労働時間45時間を超える者は0(ゼロ)であるが多忙感否めない。 ○職員会等での資料はタブレットを活用しているため、数年前よりペーパーレス化を実施している。 【目標】 ○仕事が一人に偏らないようチームとして業務を推進する ストレスチェックの結果・時間外労働時間45時間を超える人数0人			○勤務管理システムを活用し、自身の勤務時間を把握することで、勤務時間をより意識する ○初めて本校に勤務する教職員のオリエンテーションの充実			B ・心身の健康を推進する研修実施は12月に実施予定 ・4月の組織職員会により「働き方」に関するオリエンテーションを実施。 ・勤務管理システムに出退勤時間を入力し、自身の勤務時間のマネジメントを行う。			・心身の健康を推進する研修実施(12月) ・引き続き勤務管理システムを活用し、勤務時間管理を行う。			A ・ストレスチェック総合健康リスク 8.3点up(R6年度81.9点、R5年度73.6点、R4年度60.6点) ・時間外労働時間45時間を超える人数は0人			・勤務管理システムを活用し、自身の勤務時間を把握することで、勤務時間をより意識することができたが、次年度も引き続き活用するように促す必要がある。